

エコアクション21

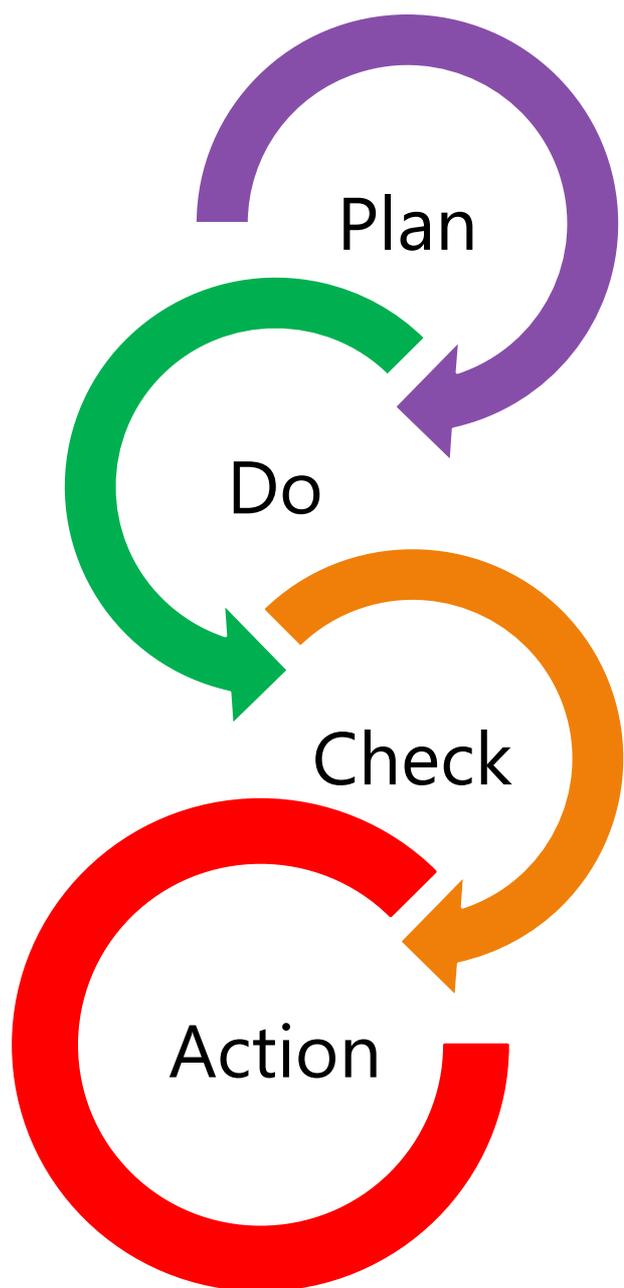
環境経営レポート 2025年版

(対象期間：2025年1月～12月)

株式会社大川原製作所

作成：2026年2月26日

概要



- 1.組織の概要
- 2.対象範囲
- 3.環境経営方針
- 4.環境経営目標
- 5.環境経営計画
- 6.SDGsの取り組み
- 7.環境経営計画に基づき実施した
取組内容（実施体制を含む）
- 8-1.環境経営目標及び計画の実施・
取組結果と評価
- 8-2.環境上の緊急事態対応訓練の
取組結果と評価
- 8-3.次年度の目標及び計画
- 9-1.環境関連法規などの遵守状況
及び評価の結果
- 9-2.違反、訴訟などの有無
- 10.代表者による全体の評価と見直し・
指示

1.組織の概要

- 1) 事業者名及び代表者氏名
- 2) 所在地
- 3) 事業の規模（2025年12月31日現在）
- 4) 環境管理責任者氏名及び担当者
- 5) 事業活動の内容

01
01

1) 事業者名及び代表者氏名

株式会社大川原製作所 代表取締役社長 大川原行雄

2) 所在地

本社・工場（技術センター棟、静岡営業所、第2研究棟を含む）

〒421-0304 静岡県榛原郡吉田町神戸1235

代表）TEL：0548-32-3211／FAX：0548-32-7784

静岡営業所）TEL：0548-32-3212／FAX：0548-32-9844

東京営業所 〒140-0014 東京都品川区大井1丁目6番3号（アゴラ大井町）

TEL：03-5743-7461／FAX：03-5743-7460

大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町8-10（アドバンス江坂）

TEL：06-6821-0341／FAX：06-6821-0508

長崎事業所※1 〒854-0066 長崎県諫早市久山町2014番地39

（認証対象外） TEL：0957-51-1162／FAX：0957-51-1163

3) 事業の規模（2025年12月31日現在）

総売上高：83.0億円、役員および正社員数：279人

本社・工場 敷地面積 40,772.5 m²

本社工場 建築面積 9,782 m²

技術センター(静岡営業所含む) 建築面積 1,844 m²

第二研究棟 建築面積 402 m²

東京営業所 延べ床面積 261 m²

大阪営業所 延べ床面積 211 m²

長崎事業所※1 敷地面積 9,700.07m² / 建築面積 1,529.22m²

4) 環境管理責任者及び事務局担当者

環境管理責任者：阿食 英二郎

事務局：金指 嘉彦

5) 事業活動の内容

食品、化学、医薬、環境の各市場向けに、乾燥・造粒・混合・濃縮・遠心分離・分級・抽出・濾過・殺菌・滅菌などの各種プロセス装置の設計、開発、製造、販売、据付、保守点検および修理を行う。

※1 長崎事業所について：2025年1月1日より株式会社大川原製作所はオーカワラテック株式会社を吸収合併し、同一法人（長崎事業所）となったため記載に含めるが、2027年の認証取得を目標とした段階的認証の一環として、現時点では認証対象外としている。

2.対象範囲

全社、全活動、役員および正社員を対象としています。

※長崎事業所については2027年の認証を目指し段階的に活動していきます。



3.環境經營方針

03

03

環境経営方針

当社は「品質・安全・環境に関わる技術の最適な組合せにより、お客様の事業価値を高め、社会の発展に貢献するエンジニアリング企業を目指す。」の経営理念のもとに、省エネ・CO₂削減、廃棄物の再使用・再資源化など顧客の課題解決に取り組み、今後、更に多様化・高度化するニーズに積極果敢に対応してまいります。

私たちは、自らの事業活動や商品・サービスの提供など、全ての領域で地球環境への負荷を低減し、持続可能な循環型社会に貢献します。

1. 環境関連法規制及び地域との協定などを遵守します。
2. すべての事業領域で環境改善を継続的に行い、環境への負荷を低減させます。
次の項目を重点課題として取り組みます。
 - 1) エネルギー・資源の無駄を減らし、CO₂排出量を削減します。
 - 2) 廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化を推進し、廃棄物排出量を減量します。
 - 3) 地下水・町水などの水使用量を低減します。
 - 4) 有害化学物質の適正管理を行い、排出量を低減します。
3. 環境を配慮した商品開発と生産・サービスを行い、使用場面での省エネルギー・CO₂削減に貢献します。
4. 環境教育・啓蒙活動を推進し、全社員に環境に関する意識向上を図ります。
5. 環境経営を全社経営計画と連動させ、「働き方改革」「ダイバーシティ経営」「人材育成」に取り組みます。
6. 環境関連情報を積極的に開示すると共に、地域社会の環境保全に責任ある対応をします。

2005年8月1日制定 / 2025年12月1日改訂

株式会社大川原製作所 代表取締役社長

大川原 行雄

4.環境経営目標

- 1) 環境負荷基準年の設定
- 2) 中期環境経営目標と2025年（第93期）の環境経営目標
- 3) 中期環境経営目標



1) 環境負荷基準年の設定

平成28年5月13日に閣議決定された「地球温暖化対策計画」より、2013年度を基準年と設定しております。

- 二酸化炭素排出量は、2030年に46%減と設定。
- 廃棄物排出量・総排水量・化学物質使用量の目標値は、2030年に26%減と設定。
- 省エネへの取り組みは、2030年に累計100,000ton-CO₂削減、累計提案件数150件と設定。

2) 中期環境経営目標と2025年（第93期）の環境経営目標

- 目標を設定する項目は環境経営方針より、①二酸化炭素排出量削減、②廃棄物排出量削減、③水使用量削減、④化学物質使用量削減、⑤当社製品で環境負荷低減取組の5項目と致します。

3) 中期環境経営目標

		2025年 (第93期) 12年目	2026年 (第94期) 13年目	2027年 (第95期) 14年目
①二酸化炭素 ※	総量 (kg-CO ₂ /年)	581,016	551,323	521,631
②廃棄物	総量 (ton/年) ※一般廃棄物+産業廃棄物	118.2 (16.0+102.2)	116.1 (15.7+100.4)	114.0 (15.4+98.6)
③水	総量 (m ³ /年)	13,610	13,364	13,119
④化学物質	総量 (kg/年) ※PRTR対象：トルエン	1,007	989	971
⑤当社製品で環境 負荷低減取組	累計削減量 (ton-CO ₂ /年) [件数]	累計75,000 [累計90件]	累計80,000 [累計100件]	累計85,000 [累計110件]

※ 購入電力の排出係数は、令和1年度実績を使用。

(中部電力0.426kg-CO₂/kWh、東京電力0.442kg-CO₂/kWh、関西電力0.318kg-CO₂/kWh)

5.環境経営計画

各環境負荷項目に対し、低減のための具体的な取組内容を定め活動しました。
詳細は8-1項に記載します。

05
05

6.SDGsの取り組み

これらのSDGsの取り組みは、環境経営方針に基づく「環境教育」「地域社会とのコミュニケーション」の一環として実施している。

- 1) イベント「伝」への初参加
- 2) 地元小学校へのSDGs出前授業



1) イベント「伝」への初参加

イベントの趣旨

本イベントは、「はたらくって、カッコいい」をキャッチフレーズに、仕事や技術、ものづくりの楽しさ、働く人の思いを次世代に伝えることを目的としています。体験を通じて、子どもたちが働くことを身近に感じ地域で働く人とつながる機会をつくる取り組みです。

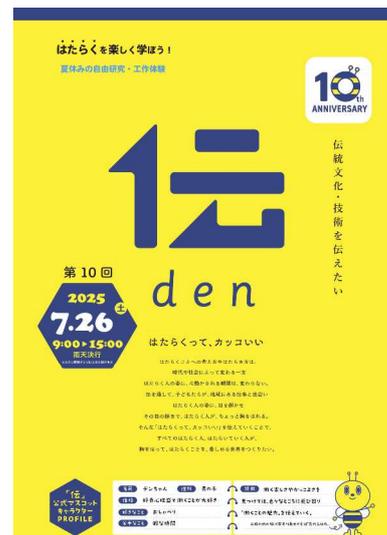
地域企業が自社の魅力を発信することで、働く意欲の啓発や地域活性化、人材育成にもつなげています。

取り組み内容

当社は、昨年度、SDGs委員会の活動の一環として本イベントに初めて参加しました。モノづくり体験や工場見学を実施し、働く現場の様子やものづくりの魅力を紹介しました。

当日は、モノづくり体験に88名、工場見学到70名の方にご参加いただき、地域の皆さまと交流を深める機会となりました。

今後も、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを継続していきます。



2) 地元小学校へのSDGs出前授業

目的・趣旨

初めての取り組みとして、地域貢献および環境教育の一環として地元小学校にてSDGs出前授業を実施しました。本授業は、企業のSDGsへの取り組みを知ることを通じて、児童が社会や環境に目を向け、よりよい未来を自ら考えようとする意欲を高めることを目的としています。学校で進められている「吉田探求」の学習と連携し、学びをより身近なものとすることを目指しました。

授業内容

当日は、第6学年107名を対象に、当社の事業内容や働く人の役割、SDGsとの関わりについて紹介しました。授業では、食品や医薬品など身近な製品を支える乾燥装置の仕組みや、装置から出る熱を再利用する省エネ技術について説明し、**年間で約48万本の木が吸収する量に相当するCO₂削減効果**があることを伝えました。授業の最後には質疑応答の時間を設け、児童から多くの質問や意見が寄せられるなど、活発な意見交換が行われました。講話を通じて内容を真剣に受け止め、自分なりに考えている様子が見え、SDGsを自分事として捉えるきっかけづくりにつながりました。

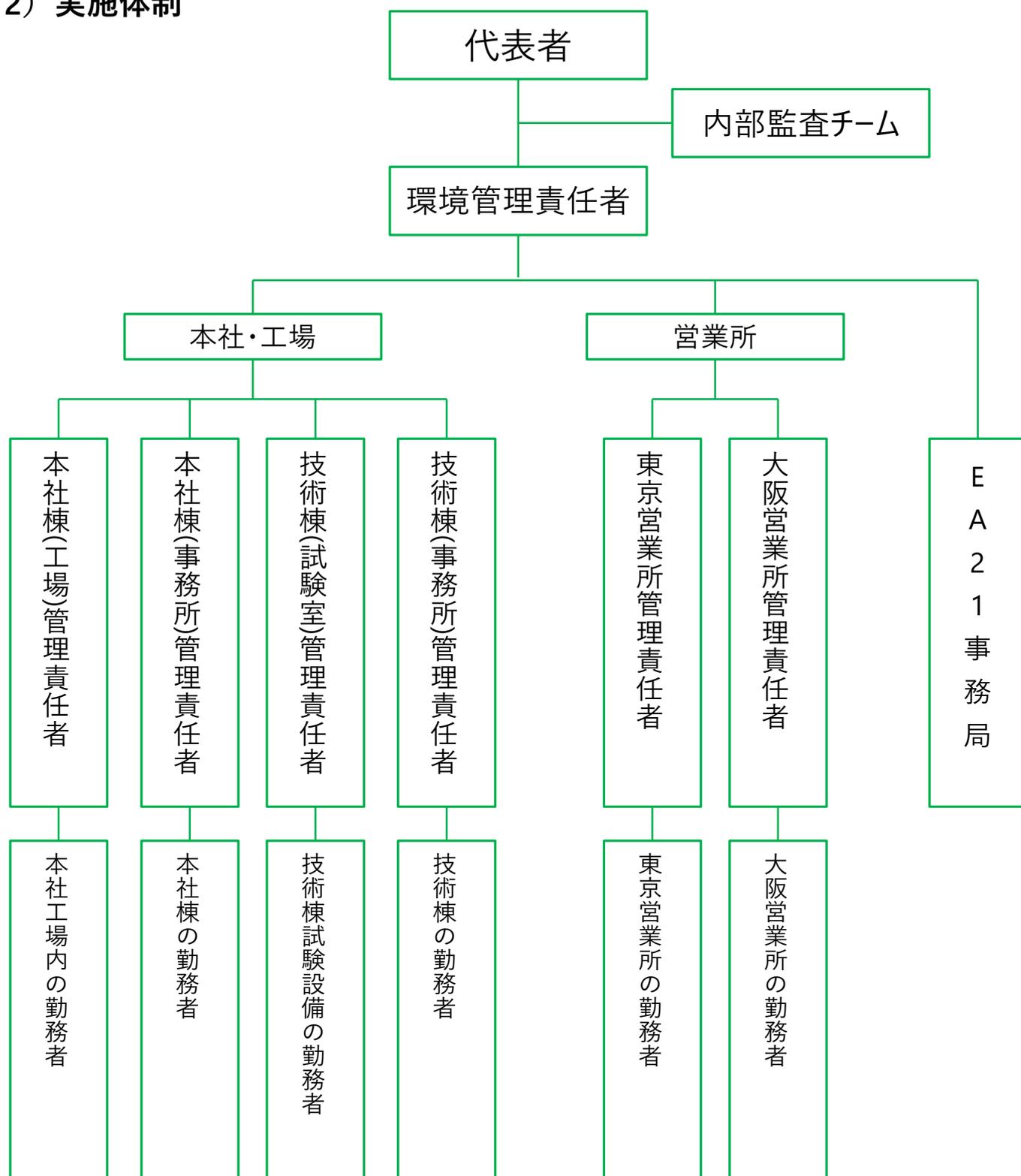


7.環境経営計画に基づき実施した取組内容

- 1) 取組内容は、8-1項結果表に併記致します。
- 2) 実施体制



2) 実施体制



※長崎事業所について：

2025年1月1日より株式会社大川原製作所はオーカラテック株式会社を吸収合併し同一法人（長崎事業所）となったが、認証対象外であるため、実施体制表からは省略する。

8-1.環境経営目標及び 計画の実施・取組結果 と評価

結果の判定及び目標達成状況は、以下の三段階にて表示いたします。

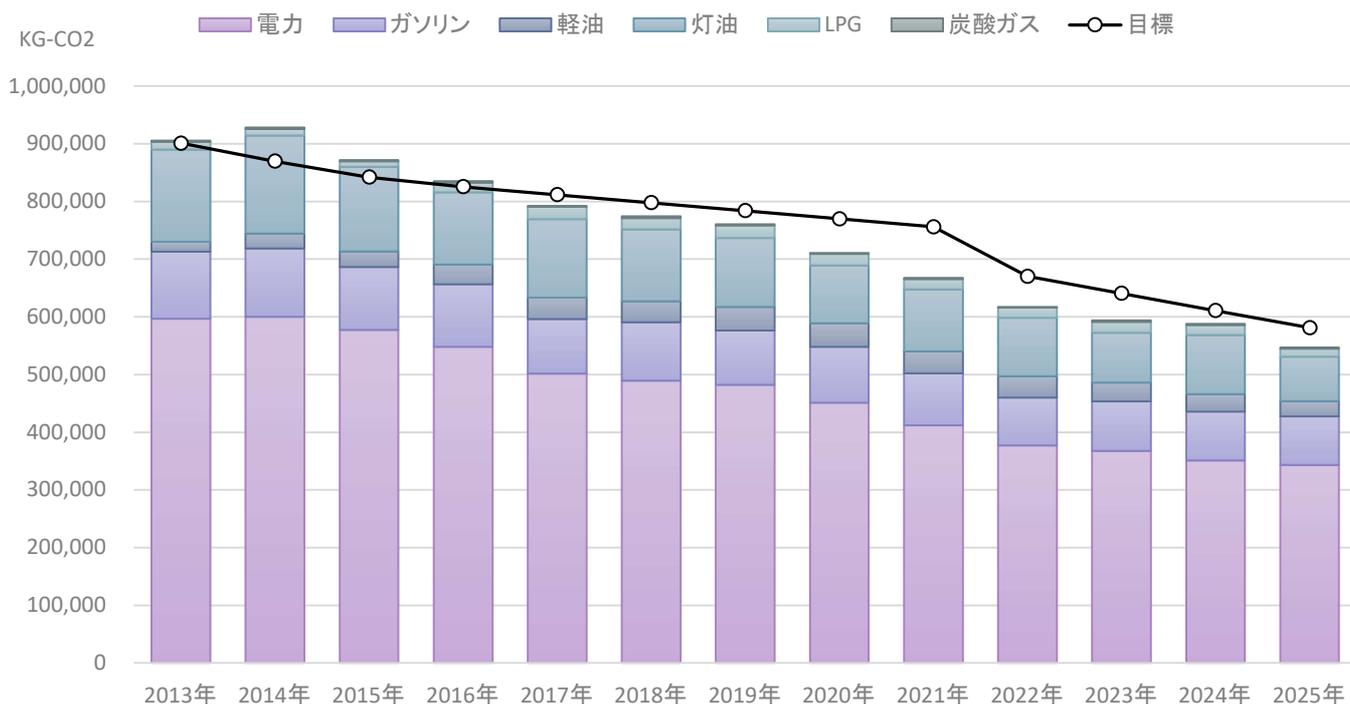
100%以上	… 達成又は良好、	★★★★
100～95%	… 達成には至らないが許容できる、	★★★☆☆
95%以下	… 未達成	★★☆☆☆

Do（計画）に対する評価：○、△、×

08-1

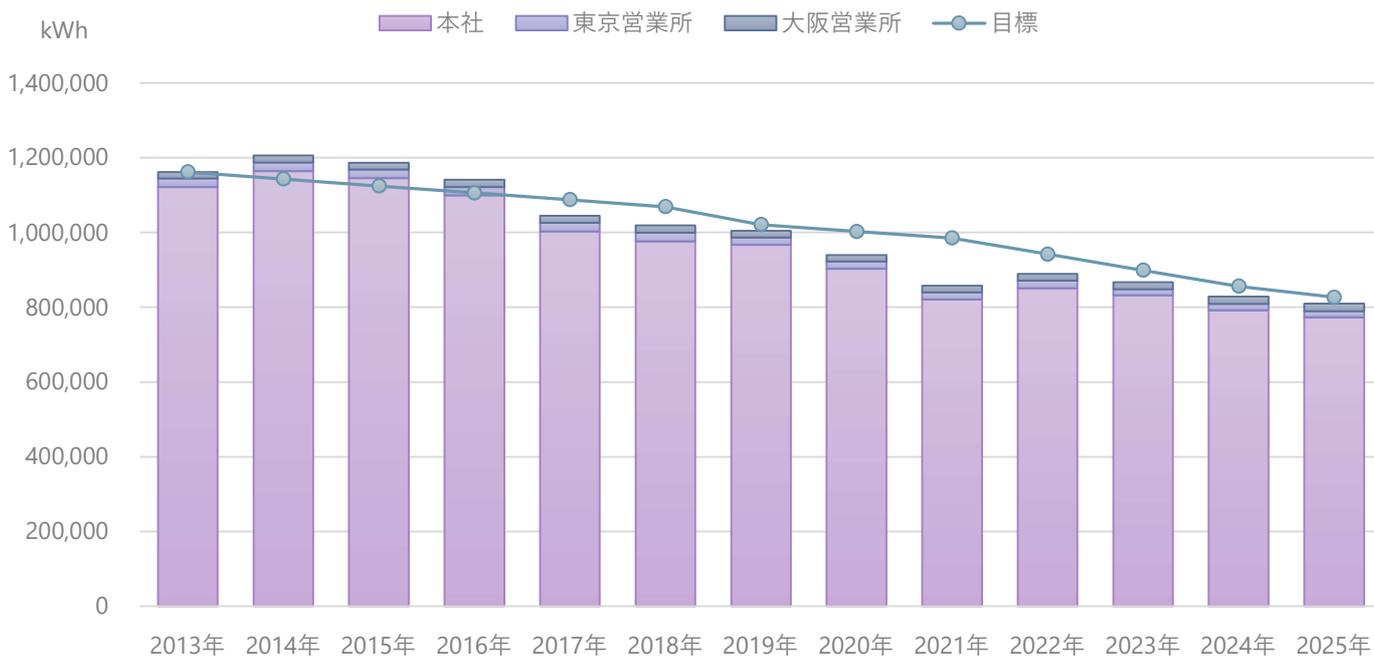
① 二酸化炭素排出量（方針2の1）

Plan	目標：581,016kg-CO ₂ /年 基準年より27.6%削減
Do	具体的な取組内容は次ページ以降に挙げる各環境負荷を低減することとする
Check	実績：546,584kg-CO ₂ /年 結果：達成率106% ★★★
評価	どの項目も昨年より少しずつ減少している。軽油、灯油、LPガス、炭酸ガスは昨年に比べ大幅に減っている。このまま改善を継続していきたい。
Act	来期の目標：551,323kg-CO ₂ /年 基準年より31.3%削減



①-1 電力使用量（方針2の1）

Plan	目標：826,268kWh 基準年より28.9%削減
Do	<ul style="list-style-type: none"> ◆エアコンの設定温度を守り、冷暖房電力を節約する [○] ◆不用時、不要場所の照明を消灯する [○] ◆事務所の蛍光灯を作業に支障のない範囲で取り外す [○] ◆機械更新時・増設時、高効率品を選定する [○]
Check	実績：809,740kWh 結果：達成率102% ★★★★★
評価	第1Q、第3Q/厳冬の影響により各営業所の電気使用量が目標を超えた。猛暑の影響によりすべてのエリアで電気使用量が目標を超えた。それぞれ季節的な要因による。第4Q/9～10月に大阪営業所の照明をLED化した。
Act	来期の目標：766,854kWh 基準年より34.0%削減

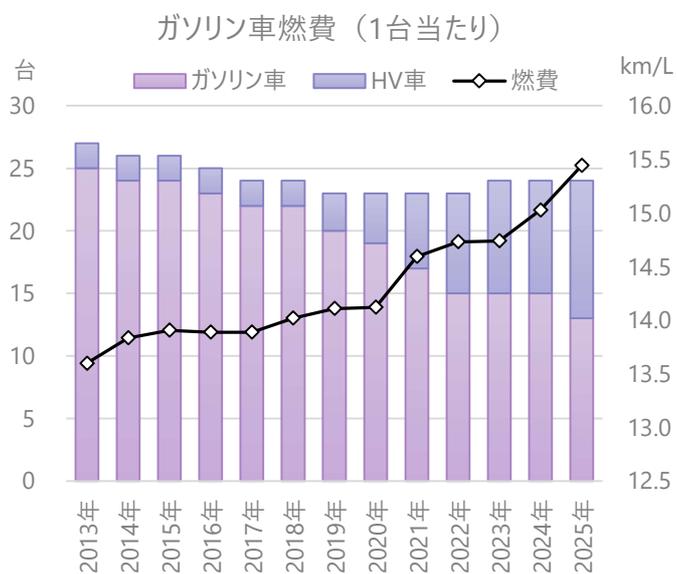
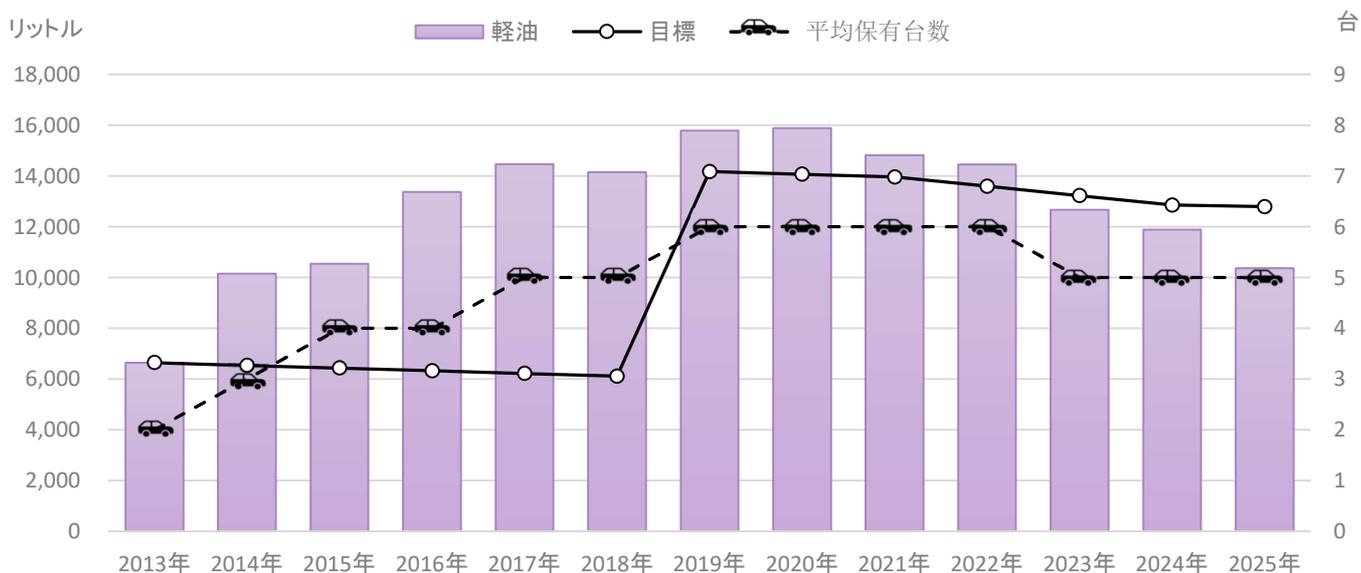
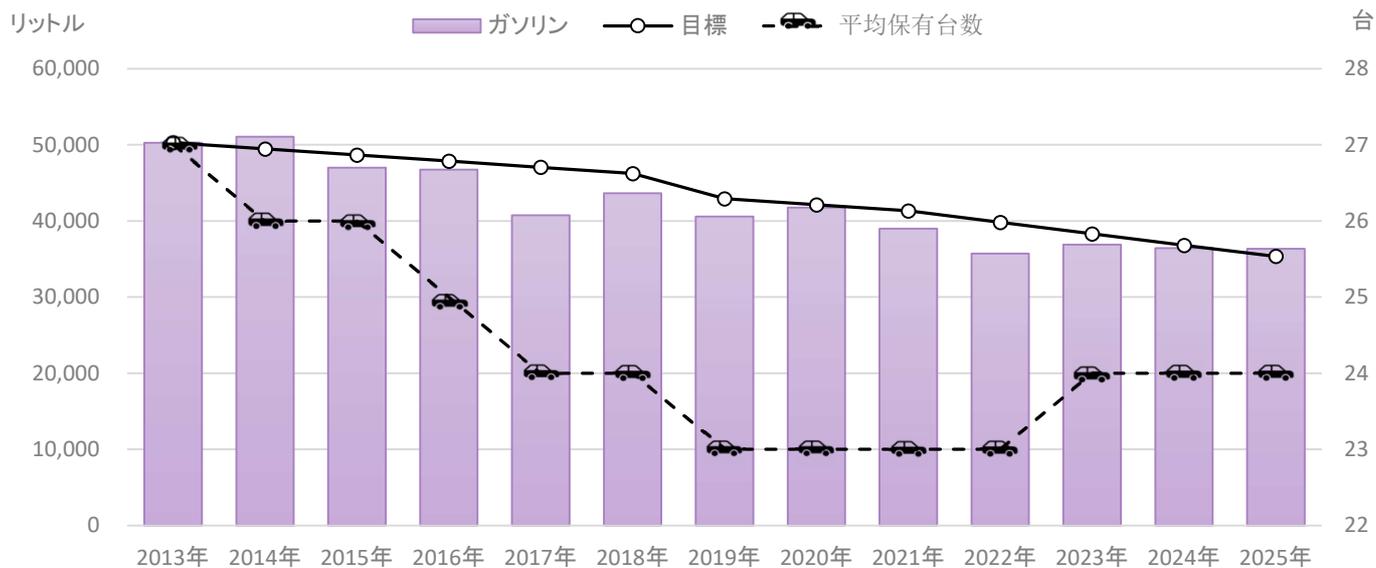


①-2、3 ガソリン、軽油使用量（方針2の1）

Plan	目標： ガソリン 35,345リットル 基準年より29.7%削減 軽油 12,791リットル 基準年より-92.5%削減※
Do	◆「急発進・急停止・急加速・急減速」4急操作をしない [○] ◆「暖機運転」をしない（フォークリフトなどの暖機は必要最低限とする） [○] ◆公共交通機関の利用により、社有車使用削減に努める [○] ◆社有車更新時にハイブリッド車又は低燃費車を採用する [○] ◆社有車環境負荷ランキング表を作成し、公開する [○]
Check	ガソリン 実績：36,352リットル 結果：達成率97% ★★★☆ 軽油 実績：10,362リットル 結果：達成率123% ★★★★★
評価	ガソリン第3Q、第4Q/近距離での運用が多く、猛暑によりエアコンを多用した、給油タイミングのズレ、などの複合的な要因によりガソリンの給油量が増加したと考えられる。 軽油はディーゼル車3台の入替あり（1月、10月、11月）。
Act	来期の目標： ガソリン 34,052リットル 基準年より32.2%削減 軽油 12,791リットル 基準年より-92.5%削減

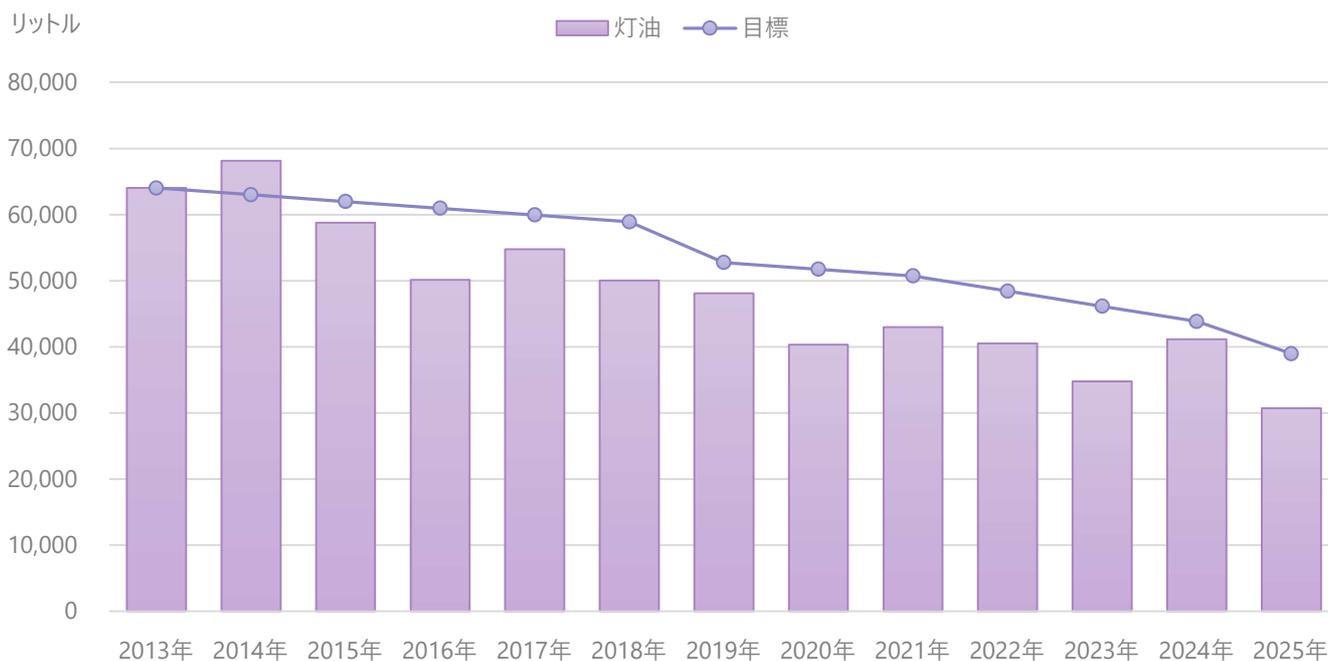
※ 軽油使用量については、基準年（2013年）当時は軽油車の保有台数が2台であったが、業務内容の変化に伴い保有台数が増加したため、2019年に実態に即した目標の見直しを行っている。

①-2、3 ガソリン、軽油使用量（方針2の1）



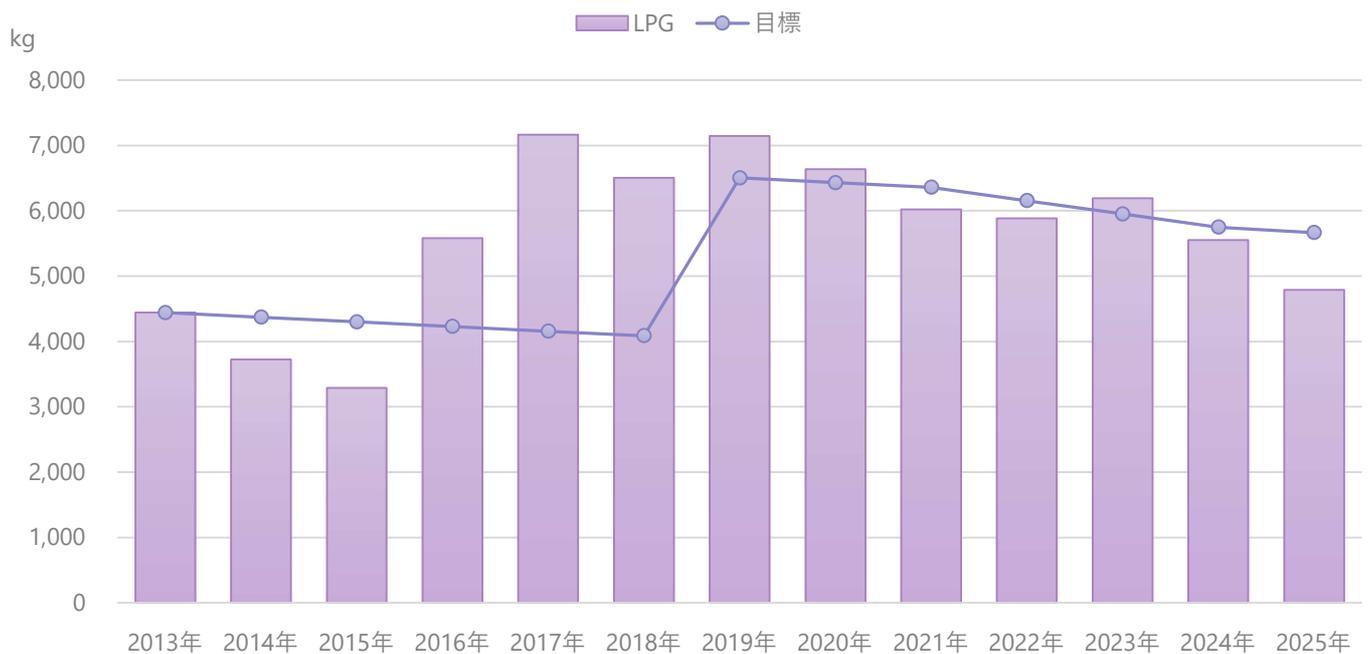
①-4 灯油使用量（方針2の1）

Plan	目標：38,956リットル 基準年より39.2%削減
Do	<ul style="list-style-type: none"> ◆営業試験において、灯油ボイラを適切に管理し、運転時間を短縮する（適時起動・停止） [○] ◆工場内暖房ストーブの適正使用(不在時の暖房カット)を徹底する [△] 厳冬のため
Check	実績：30,700リットル 結果：達成率127% ★★★
評価	第1Q/厳冬の影響でストーブの稼働率が高くなり目標を超えた。季節的な要因による。 前年に比べエバポールの水運転検査件数が減少したため、ボイラ燃焼による使用量が減少した（10件→4件）。
Act	来期の目標：38,956リットル 基準年より39.2%削減



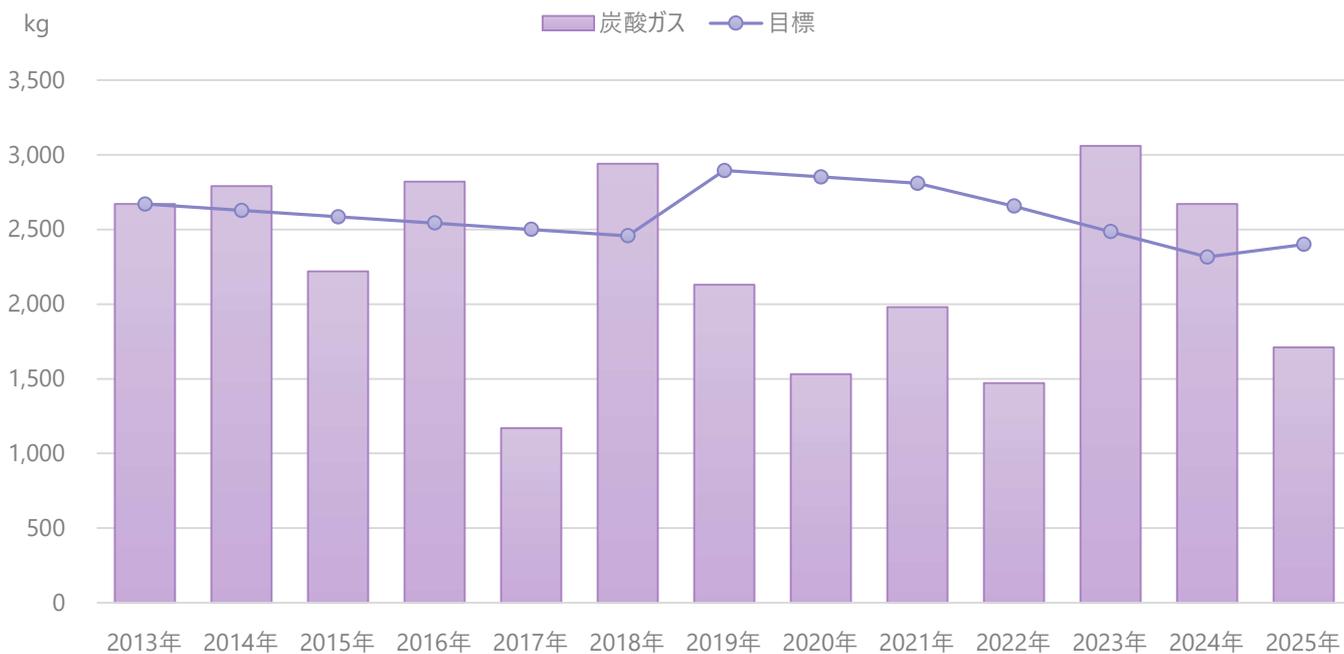
①-5 LPG使用量（方針2の1）

Plan	目標：5,667kg 基準年より-27.6%削減
Do	◆給湯室の瞬間湯沸し器の火種は使用后、消火する [○] ◆ガスバーナ・コンロなど、火力の適正調整で無駄を減らす [○]
Check	実績：4,790kg 結果：達成率118% ★★★★★
評価	昨年9月から取り組んでいる食堂での使用制限（食洗機温度の低下、麺茹で機の時短）が結果につながったと考えられる。取り組みを継続したい。
Act	来期の目標：5,667kg 基準年より-27.6%削減



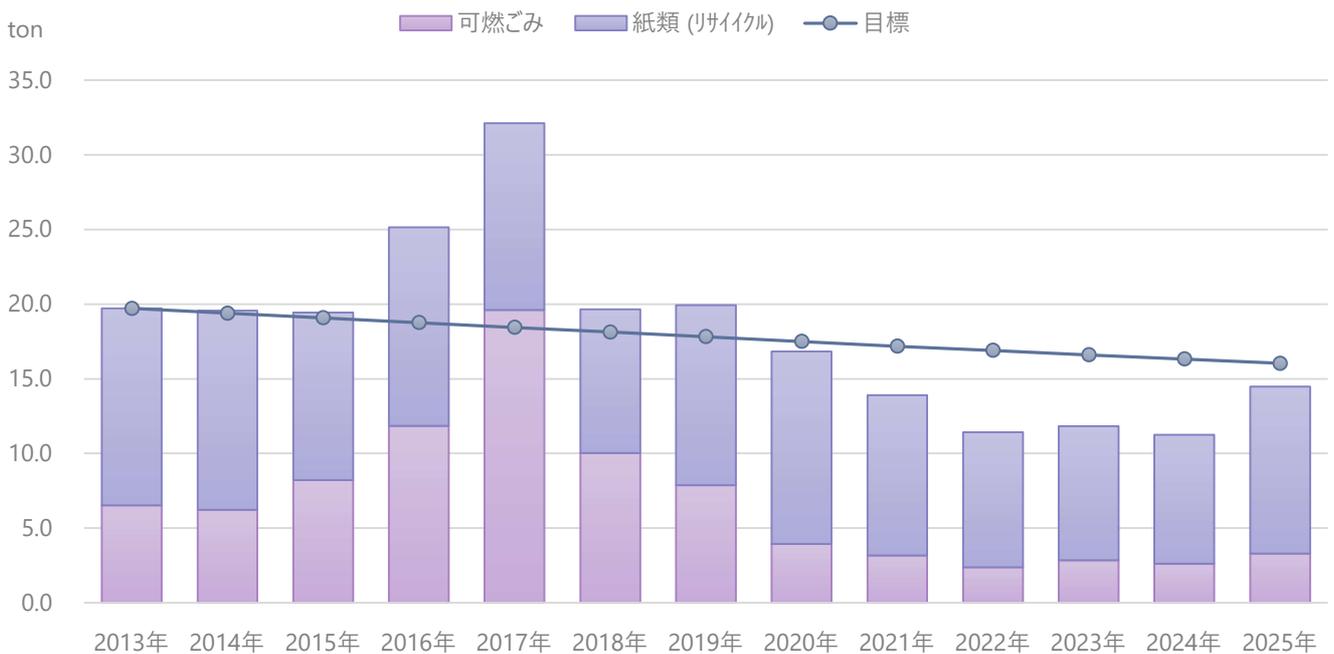
①-6 炭酸ガス使用量（方針2の1）

Plan	目標：2,400kg 基準年より10.1%削減
Do	◆溶接用（半自動溶接機）と冷やし嵌め用で使用している炭酸ガスを必要最低限とする [○]
Check	実績：1,710kg 結果：達成率140% ★★★
評価	今期は炭酸ガスの使用を必要とする部品製作が少なかったため、使用量も少なかった。 ※毎年、炭酸ガス使用量は、CO ₂ 排出量全体の1%未満であること、受注案件に左右され使用量のコントロールが難しいため次年からは集計に含めない。ただし、適正使用および保管管理については、引き続き日常管理を実施する。
Act	来期の目標：2,400kg（努力目標、評価には含めない）



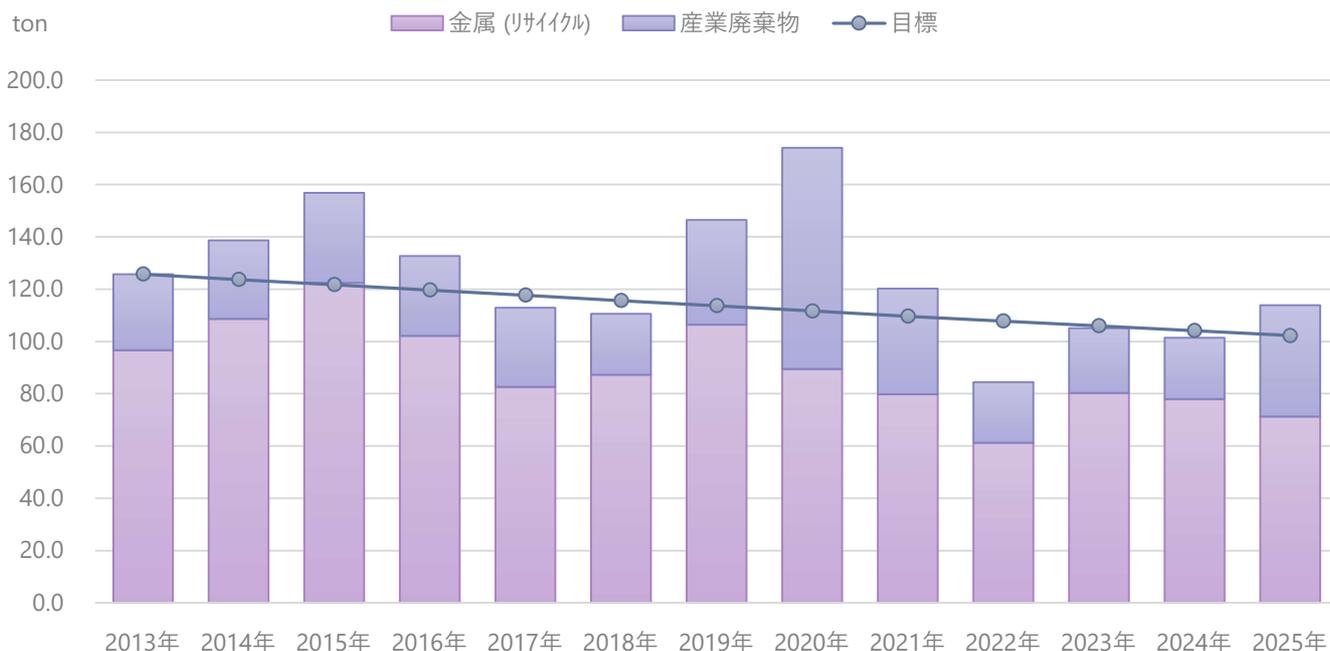
②-1 一般廃棄物総排出量（方針2の2）

Plan	目標：16.0ton（可燃ごみ＋紙類） 基準年より18.7%削減
Do	◆紙ゴミ・雑誌は分別することにより可燃ゴミを減らし、再資源化する [○] ◆購入機器カタログや取扱説明書類は可能な限り電子情報で入手する [○] ◆段ボールの再資源化を促進する [○]
Check	実績：14.5ton 結果：達成率110% ★★★★★
評価	可燃ごみは目標を達成している。 紙類は過去の紙資料のデータ化を進めているため、排出量が目標よりややオーバーした。ペーパーレス化の結果が出るのはもう少し先になる。
Act	来期の目標：15.7ton 基準年より20.1%削減



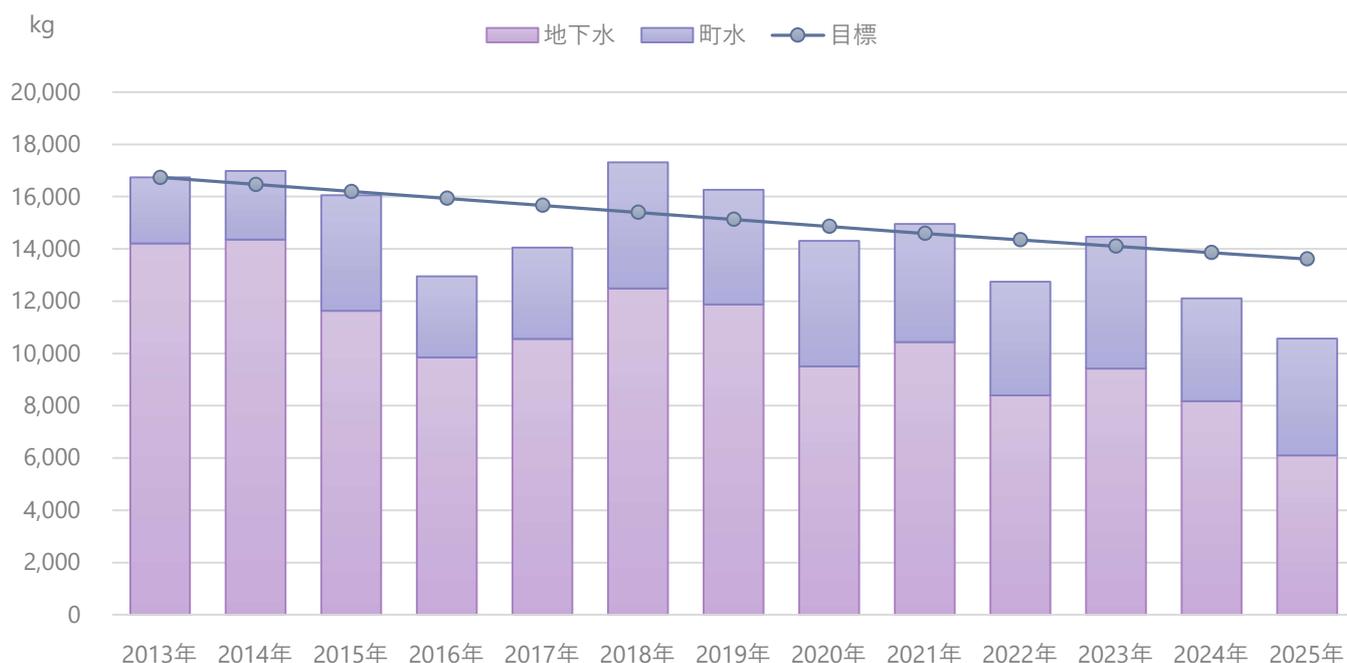
②-2 産業廃棄物総排出量（方針2の2）

Plan	目標：102.2ton（金属類＋産業廃棄物＋特別管理廃棄物） 基準年より18.7%削減
Do	◆廃油・金属の分別を徹底し、再資源化する [○] ◆木枠類の再資源化を促進する [○] ◆使用済みの充電式乾電池の回収、リサイクルの推進 [△] 回収のみ
Check	実績：113.8ton 結果：達成率90% ★☆☆
評価	第1Q、第2Q/1月と3月に塗料缶、パイプ残材、倉庫片付け品など金属の廃棄あり。5月と7月に倉庫の片付けにより金属の廃棄があり、結果として目標を超えた。
Act	来期の目標：100.4ton 基準年より20.1%削減



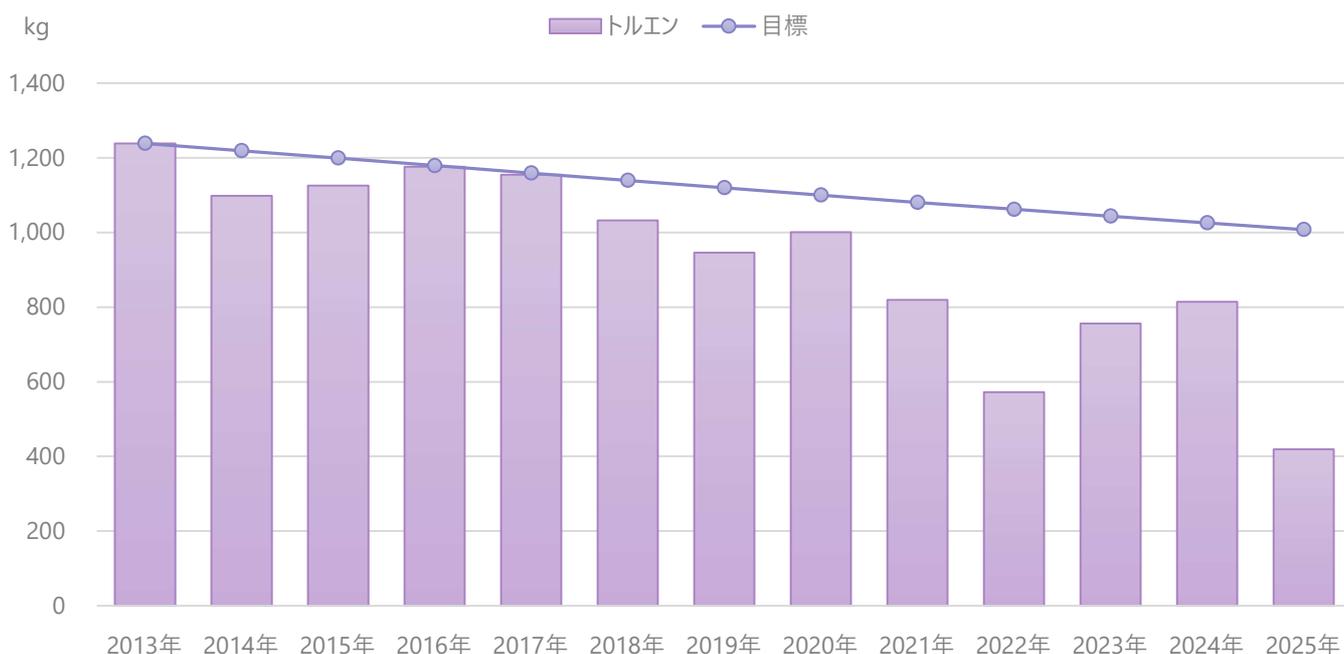
③ 水使用量（方針2の3）

Plan	目標：13,610m ³ （地下水＋上水道） 基準年より18.7%削減
Do	◆工場内、営業試験による節水の啓蒙 ◆節水コマの設置 [○] [△] 工場内一部のみ
Check	実績：10,571m ³ 結果：達成率129% ★★★★★
評価	前年に比べ水運転検査件数が減少した（19件→4件）ため、水使用量が減少した。
Act	来期の目標：13,364m ³ 基準年より20.1%削減



④ 化学物質使用量（方針2の4）

Plan	目標：1,007kg（PRTR対象物質：トルエン） 基準年より18.7%削減
Do	◆シンナーなど（トルエン）の使用量を削減する。特に製品・部品の洗浄用シンナー使用量を減らす [○] ◆清掃用途の場合、シンナーをスプレーボトルに詰め替えて使用量を減らす [○]
Check	実績：419kg 結果：達成率240% ★★★
評価	今期は塗料を使用する機器製作が少なかったため、使用量も少なかった。
Act	来期の目標：989kg 基準年より20.1%削減

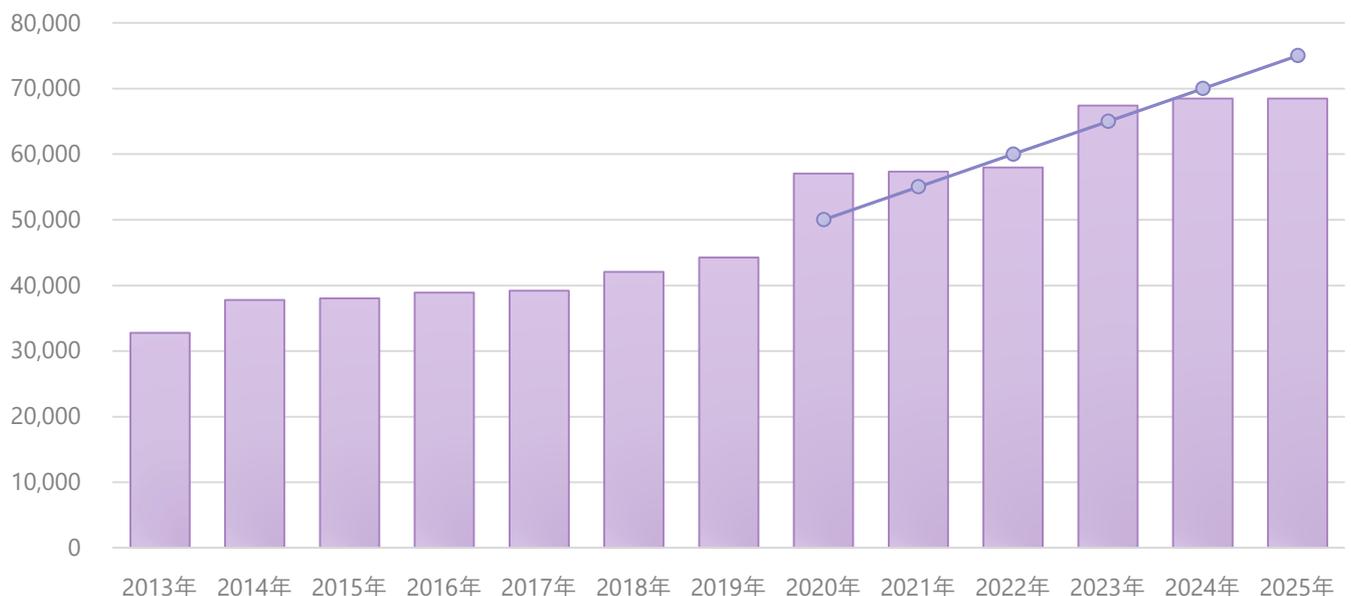


⑤ 当社製品でCO₂削減、省エネに取り組む（方針3）

Plan	目標：累計75,000ton-CO ₂ (提案採用件数：累計90件)
Do	◆新規設備に関し、装置設計の際、省エネを推進、顧客に提供する [○]
Check	実績：累計68,465ton-CO ₂ (提案採用件数：累計80件) 結果：達成率0% ☆☆☆
評価	検証中案件は存在したが、当期中に検収に至らず、削減量としての計上は行わなかった。次年度は、検証から検収までの進捗管理を強化する。
Act	来期の目標：累計75,000ton-CO ₂ (提案採用件数：累計90件)

「環境への取り組み」CO₂削減量（累計）

■ 累計 ● 累計削減目標



⑥ 年間教育・訓練（方針5）

Plan 目標：年間合計1回以上

Do ◆品質管理委員会で経営者による改善進捗状況として、『年間教育・訓練計画（計画及び実施）』を確認 [△]

Check 実績：達成率73% ★☆☆☆

評価 全11部署の内3部署が未実施（教育訓練実施記録に記載なし）

Act 来期の目標：年間合計1回以上

⑦ 周辺住民への影響（方針7）

Plan 目標：苦情件数ゼロ件

Do ◆機器の日常点検や定期点検、環境パトロールを確実に実施し、近隣住民から寄せられる苦情をゼロにする [○]

Check 実績：苦情件数ゼロ件 ★★★★★

評価 引き続き定期点検やパトロールを行い、苦情の種を未然に防ぐように努める。

Act 来期の目標：苦情件数ゼロ件

8-2.環境上の緊急事態 対応訓練の取組結果と 評価

08-2

緊急時対応訓練（EA-4491附属書-3：ガス漏えい対応）

2025年（第93期）は、以下の緊急時対応訓練を実施した。

- ①総務部：LPガス漏えいを想定した訓練
- ②生産部溶接係：アルゴンガス漏えいを想定した訓練

【総務部】LPガス漏えい対応訓練

食堂等で使用するLPガスに起因する環境上の緊急事態に備え、対応手順および連絡体制を整備している。

- ◇実施日：2025年7月7日
- ◇場所：工場機械棟北側 LPガスボンベ置き場（食堂用）
- ◇想定内容：LPガス配管（ゴムホース）劣化によるガス漏えい
- ◇参加部署：総務部（設備管理担当）、品証

本訓練では、異臭発見時の初動対応、関係者への連絡、火気使用禁止の周知、ガス元栓の閉止、周囲への注意喚起等、一連の対応手順について確認を行った。また、屋外設置であることを踏まえ、必要な措置や表示物・装備品の整備状況についても確認した。

訓練結果を踏まえ、対応手順および体制の妥当性を確認するとともに、今後の緊急時対応能力の維持・向上につなげている。

【生産部（溶接係）】アルゴンガス漏えい対応訓練

溶接作業で使用する高圧ガスに伴う環境上および安全上のリスクに備え、緊急時対応手順および連絡体制を整備している。

- ◇実施日：2025年7月28日
- ◇場所：工場D棟東側 高圧ガスボンベ保管庫（溶接係）
- ◇想定内容：アルゴンガスボンベからのガス漏えい
- ◇参加部署：生産部溶接係、品証

本訓練では、ガス漏れ発見時の初動対応、管理者への連絡、元栓閉止、立入制限、使用機器停止および状況確認など、一連の対応手順について確認を行った。あわせて、アルゴンガスの特性（無色・無臭、空気より重く酸欠の恐れがある）を共有し、屋外保管であることを踏まえた対応の妥当性を確認した。

訓練後は、既存の手順書掲示等による対応体制の有効性を確認し、緊急時にも適切に対応できる体制を維持している。

詳細な訓練内容および対応結果については、社内の緊急時対応訓練記録にて管理している。

8-3.次年度の目標及び 計画

08-3
08-3

2025～2027年（第93～95期）の環境経営目標

①二酸化炭素排出量削減、②廃棄物排出量削減、③水使用量削減、④化学物質使用量削減、⑤当社製品で環境負荷低減取組

●①の目標は、1年あたり3.7%ずつ削減する。

●②、③、④の目標は、1年あたり1.4%ずつ削減する。

●⑤の目標は、1年あたり5,000ton-CO₂ ずつ削減する（提案採用件数は10件/年）。

中期3カ年計画の第2期		2025年 (第93期) 12年目	2026年 (第94期) 13年目	2027年 (第95期) 14年目
①二酸化炭素 ※	基準年比	27.6%減	31.3%減	35.0%減
	総量 (kg-CO ₂ /年)	581,016	551,323	521,631
②廃棄物	②～④基準年比	18.6%減	20.0%減	21.4%減
	総量 (ton/年) ※一般廃棄物+産業廃棄物	118.2 (16.0+102.2)	116.1 (15.7+100.4)	114.0 (15.4+98.6)
③水	総量 (m ³ /年)	13,610	13,364	13,119
④化学物質	総量 (kg/年) ※PRTR対象：トルエン	1,007	989	971
⑤当社製品で環境負荷低減取組	累計削減量 [件数] (ton-CO ₂ /年)	累計75,000 [累計90件]	累計75,000 ※2 [累計90件]	累計80,000 [累計100件]

※ 2025～27年の購入電力の排出係数は、令和1年度実績（中部電力0.426kg-CO₂/kWh、東京電力0.442kg-CO₂/kWh、関西電力0.318kg-CO₂/kWh）を使用。

※2 ⑤について2025年に実績がゼロだったので目標値は据え置きとした。

9-1.環境関連法規などの 遵守状況及び評価の 結果

09-1

№	法規、条例 (略称)	規制事項	主担当部署	対象物・設備など 届出・管理業務	管理・測定 頻度	確認結果の記録
1	公害防止組織法	公害防止組織の整備	環境管理責任者	公害防止管理者 の選任、等	年1回	問題なし
2	廃棄物処理法	廃プラ、廃油、汚泥など	人事総務部 工事・サービス部	自主管理	都度	産業廃棄物管理 票交付等状況報 告書 (R6.6.5提 出) 敷地内北側産廃 置き場 (廃プラ、 木くず他) などを 確認 問題なし
	静岡県 産業廃棄物の適 正な処理に関する 条例	産業廃棄物	EA21事務局			
	吉田町 廃棄物の処理及 び清掃に関する条 例	一般廃棄物	人事総務部			
3	浄化槽法	浄化槽	人事総務部	法定検査	年1回	R7.2.26測定 総合判定：適正
				水質検査	年1回	浄化槽法定点検 結果 (R7.2.26) 水質検査結果： 良
4	工業用水法 静岡県条例	井戸水 地下水採取	人事総務部	揚水施設設置・管 理責任者届出	年1回	設置届 届出内容に変更 なし 地下水採取量報 告 (R7.1.7提 出)
5	工場立地法	—	人事総務部	特定工場の届出	—	特定工場の届出 届出内容に変更 なし
6	化管法 (PRTR制度)	トルエン	生産部	トルエンの排出と移 動量の集計	年1回	第1種指定化学物 質の排出量及び 移動量の届出書 (R7.6.5届出)
7	大気汚染防止法	煙突 ばい煙	技術一部	ボイラ設置許可申 請書	年2回	排ガス測定(R6.4.4、 R6.9.24) 規制値以下：良
8	水質汚濁防止法	pH	技術一部	排水自主管理	毎日2回	pH測定記録 基準範囲内：良
		重金属類	技術一部	調整池の放流水	年1回	成分分析報告書 (R6.12.11測定) 規制値以下：良
9	騒音規制法	送風機 コンプレッサ	生産部 技術一部	設置届出のみ	—	騒音特定施設設 置届出 届出内容に変更 なし

№	法規、条例 (略称)	規制事項	主担当部署	対象物・設備など 届出・管理業務	管理・測定 頻度	確認結果の記録
10	振動規制法	プレス機など	生産部 技術一部	設置届出のみ	—	振動特定施設設置届出 届出内容に変更なし
11	悪臭防止法	試験設備など	技術一部	—	—	問題なし
12	土壌汚染対策法	重金属類・シアン化合物・油分等	技術一部 生産部	調整池の底質	年1回	R6.12.11測定
13	労働安全衛生法	工場各所の有機溶剤、 粉塵、特化物等の測定	生産部	専門業者による作業環境測定	年2回	作業環境測定実施(R7.6.20,23)
14	ボイラー及び圧力 容器安全規則	蒸気ボイラー	品質保証部	設置届け 年次点検	年1回	保守点検 R6.03.11実施 法令点検 R6.11.26に実施
		蒸気ボイラー 温水ボイラー 熱媒ボイラー	技術一部			保守点検 R6.03.11、12実施 法令点検 R6.10.30、31/ R6.11.26、27実施
15	消防法	少量危険物屋内タンク貯蔵所 少量危険物屋外タンク貯蔵所 危険物屋外タンク貯蔵所 危険物屋内貯蔵所	技術一部 生産部	設置許可申請書 給油確認・点検	—	危険物屋内貯蔵所更新届け出 その他届出内容に変更なし
16	高圧ガス保安法	圧縮アセチレンガス 液化石油ガス	生産部 総務部	消防活動障害物質の届出(500kg)	—	設置届 届出内容に変更なし 異常なし
17	フロン排出抑制法	試験設備：チラーユニット	技術一部	業者点検	年1回	定期点検実施 (R7.6.11) 始業前・日常点検実施
		業務用エアコン	人事総務部	簡易点検	3ヶ月に1 回	定期点検・記録実施 (R6.1,4,7,10 月実施)
		大型冷蔵庫		業者点検 簡易点検		定期点検・記録実施 (R6.1,4,7,10 月実施)
18	毒物及び劇物取締法	劇物：51.硝酸、54.水酸化ナトリウム、89.硫酸	技術一部 生産部	自主管理	年1回	適切に管理している

9-2.違反、訴訟などの 有無

- ・各事項の法遵守状況を確認しました。
- ・環境関連法規に関する違反は有りませんでした。
- ・関連機関の指摘や苦情、訴訟はありませんでした。
- ・地域からの苦情はありませんでした。

確認者：環境管理責任者 阿食 英二郎
確認日：2025年9月22日

09-2

10.代表者による全体の 評価と見直し・指示

- 1) 見直しと指示
- 2) 全体の評価

10
TO

1) 見直しと指示

・環境方針	変更あり	指示事項：第4項に関する記述を削除 (12/1改訂)
・環境目標	変更なし	指示事項：なし
・環境活動計画	変更なし	指示事項：無し

2) 全体の評価

第93期の環境目標の達成状況は、CO₂排出量は目標対比94.1%、前期比-7.0%となり、対象項目のほぼ全てで前期より削減ができた点で良好な結果であったと言える。また、当社の事業内容は定常的な業務ではなく、オーダーメイド品の製造・販売から月単位での評価は難しく年単位での評価が妥当と考える。同時に、ここ数年の結果は緩やかな右肩下がりの傾向で大きな削減は見込めないことから、社員一人一人の意識改革並びに今まで以上の削減対策を立て、第94期も全社一丸となって「環境目標の達成」を目指し取り組んでいく必要がある。

省エネ・CO₂削減、廃棄物の再使用・再資源化など社会的問題を解決するための取組みは、我々にとって今後も最重要テーマであり、継続して取り組んでいく必要がある。持続可能な循環型社会の実現のため、1年毎に期間を区切って振り返り、その時の反省を基に次の環境目標が策定されなければならない。

基本に忠実な業務遂行によりムダの削減を徹底してほしい。課題として取り組んできた「EA21とSDGsの相互補完的連携と相乗効果を生み出すこと」についても、残念ながら依然一定の情報共有は進んでいるものの要求レベルには達していない。引き続き有効な連携による相乗効果を意識し、取り組みを続けてほしい。



2026年1月29日
株式会社大川原製作所
代表取締役社長 大川原行雄

エコアクション21

環境経営レポート 2025年版

(対象期間：2025年1月～12月)

株式会社大川原製作所